

Economic Indicators

発表日:2022年4月15日(金)

主要経済指標予定(2022年4月18日~4月22日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム(Tel:03-5221-4525)

(4月18日~4月22日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
4月18日 (月)					
4月19日 (火)	13:30 2月鉱工業指数・確報				
	鉱工業生産指数(前月比)	—	—	—	+0.1%
	(前年比)	—	—	—	+0.2%
	稼働率指数(前月比)	—	—	—	▲3.2%
	生産能力指数(前年比)	—	—	—	▲1.3%
4月20日 (水)	8:50 3月貿易統計				
	輸出金額(前年比)	+18.0%	+17.5%	+12.3%~+20.7%	+19.1%
	輸入金額(前年比)	+31.0%	+28.3%	+20.6%~+35.2%	+34.1%
	貿易収支(原数値、億円)	▲1,526	▲374	▲8,580~+2,703	▲6,697
	13:30 2月第3次産業活動指数				
	(前月比)	▲0.7%	—	—	▲0.7%
	(前年比)	+1.0%	—	—	+1.6%
	14:00 3月コンビニエンスストア統計				
	既存店ベース売上高(前年比)	—	—	—	▲0.2%
4月21日 (木)	8:50 4月主要銀行貸出アンケート調査				
	14:00 3月チェーンストア販売統計				
	店舗調整後販売額(前年比)	—	—	—	+6.1%
	4月月例経済報告				
4月22日 (金)	8:30 2月毎月勤労統計・確報				
	名目賃金(前年比)	—	—	—	
	8:30 3月消費者物価指数(全国)				
	全国コア(前年比)	+0.7%	+0.8%	+0.7%~+1.0%	+0.6%
	全国総合(前年比)	+1.2%	+1.2%	+1.2%~+1.4%	+0.9%

3月貿易統計・貿易収支額（原数値） 当社予想：▲1,526億円 中央値：▲374億円

3月の貿易収支は▲7,654億の赤字（季節調整値）を予想する。原油高を背景に輸入金額が輸出金額を上回ること、貿易赤字が続く見込み。先行きについては、ウクライナ情勢の悪化により原油相場が一段と上昇したことを反映して、当面は輸入金額の高い上昇が続くとみられる。加えて、ウクライナ危機は半導体等の部品調達面での悪影響も懸念され、4月以降は再び自動車輸出が下振れる可能性が高い。当面は貿易収支の赤字拡大が続くだろう。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

2月第3次産業活動指数 当社予想：前月比▲0.7%

2月の第3次産業活動指数は、前月比▲0.7%と2カ月連続の低下を予想する。2月も国内の感染動向が落ち着かず、全国的にまん延防止等重点措置が継続したことで、生活娯楽関連サービスを中心に下振れたものとみられる。先行きは、3月に入るとまん延防止等重点措置が解除されたことで、飲食や宿泊業の持ち直しが見込まれる。感染動向が徐々に落ち着いていくことに伴い、第3次産業も緩やかに回復するとみられる。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

3月全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合） 当社予想：前年比+0.7% 中央値：同+0.8%

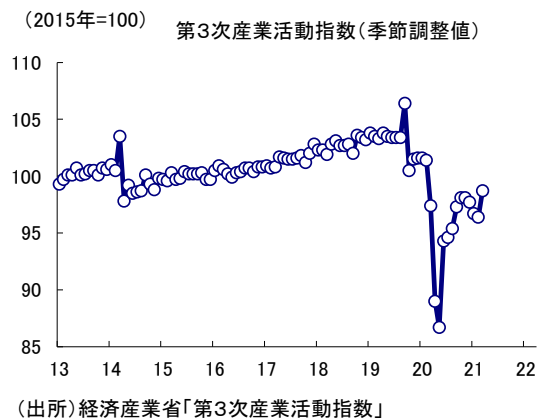
CPI コアは前年比+0.7%と、前月から0.1%Ptの上昇率拡大を予想。電気・ガス代のプラス寄与が拡大することに加え、原材料費価格の高騰から食料品の値上げが進んだことが押し上げ要因になる見込み。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

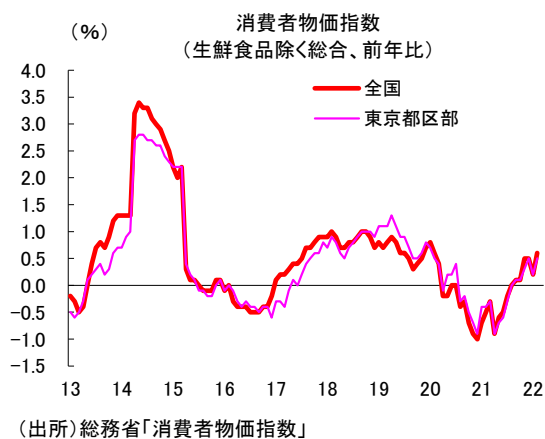
図表1



図表2



図表3



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。